

6. 衛生管理計画の策定例と実施記録について

衛生管理計画（一例）

対象業務		管理項目	
1	商品の受入れ	いつ	商品受入れ時 <ul style="list-style-type: none"> 発注商品と数量が発注と合っていることを確認 要冷蔵品は納品された時、商品が適正温度であること 包装に汚れや破損がないこと 容器からの漏れがないこと 賞味期限内の適切な商品であること
		どのように	<ul style="list-style-type: none"> 問題があったとき 問題があった商品は返品し、代替品の受入れを確認する
2	商品の保管	いつ	始業時、作業中、業務終了時、その他() <ul style="list-style-type: none"> 要冷蔵品は冷蔵庫にて10℃以下で保管すること 庫内は常に整理し、賞味期限ごとに区分けし、先入・先出を励行する 冷蔵庫の庫内作業時には、温度確認を適宜行うこと 作業終了時は、確実に扉が閉まっていることを確認する 冷蔵庫の温度は、庫内設置温度計にて、始業時と終業時に確認して記録する 庫内温度の異常は、その原因を究明し、故障のときは直ちに修理依頼を行う 温度以上が作業上の取扱い不備のときは、その原因を特定し対処する
		どのように	<ul style="list-style-type: none"> 問題があったとき 温度以上が作業上の取扱い不備のときは、その原因を特定し対処する
3	商品の配達	いつ	配達前、配達中、配達終了時 <ul style="list-style-type: none"> 冷蔵車は庫内温度を確認し、保冷シッパー利用の場合は、シッパー内部の温度を計測して記録する 温度測定は、出発時と帰着時に行い、配達時間が2時間を超えるときは適宜温度確認を行う 配達車両のドア及び保冷シッパーの開閉は速やかに行い、商品温度の上昇に配慮する 配達中の保冷対策は蓄冷剤など冷媒の状態を適宜確認する 配達時に回収した空ビンと蓄冷剤はこれから配達する商品と分けて管理する 空ビンは帰着後、専用スペースに整理、保管する 蓄冷剤など冷媒が解けたときは、追加、交換など温度を保つ対策を講じる
		どのように	<ul style="list-style-type: none"> 問題があったとき 蓄冷剤など冷媒が解けたときは、追加、交換など温度を保つ対策を講じる

商品受入れおよび
冷蔵庫の温度チェック表 【記入例】

2019年 10月

日	商品受入れ	冷蔵庫の温度				特記事項
		始業時温度	確認者	終業時温度	確認者	
1日	適・否	7℃	小本	5℃	小本	*3日の終業時に冷蔵庫の温度が15℃を示していた。至急、業者を呼んで点検修理を行った
2日	適・否	6℃	小本	5℃	小本	
3日	適・否	6℃	小本	15℃	小本	
4日	適・否	℃		℃		
5日	適・否	℃		℃		
6日	適・否	℃		℃		
7日	適・否	℃		℃		
8日	適・否	℃		℃		
9日	適・否	℃		℃		
10日	適・否	℃		℃		
11日	適・否	℃		℃		
12日	適・否	℃		℃		
13日	適・否	℃		℃		
14日	適・否	℃		℃		
15日	適・否	℃		℃		
16日	適・否	℃		℃		
17日	適・否	℃		℃		
18日	適・否	℃		℃		
19日	適・否	℃		℃		
20日	適・否	℃		℃		
21日	適・否	℃		℃		
22日	適・否	℃		℃		
23日	適・否	℃		℃		
24日	適・否	℃		℃		
25日	適・否	℃		℃		
26日	適・否	℃		℃		
27日	適・否	℃		℃		
28日	適・否	℃		℃		
29日	適・否	℃		℃		
30日	適・否	℃		℃		
31日	適・否	℃		℃		

配達車両の温度チェック表 【記入例】

2019年 10月 【車両ナンバー： 12-34】

日	出発時	2時間後	帰社時	確認者	特記事項
1日	6℃	℃	9.0℃	小本	*2日帰着時の車両庫内温度が15℃を示していたが残った商品は蓄冷剤により10℃を保っていたので検品後冷蔵庫で保管した。
2日	6℃	℃	15.0℃	小本	
3日	℃	℃	℃		
4日	℃	9.5℃	℃		
5日	℃	℃	℃		
6日	℃	9.0℃	℃		
7日	℃	℃	℃		*4日配達開始から2時間を超えた時点でシッパー内部の温度を計測したところ10℃以下を保っていたので配達を継続した。
8日	℃	℃	℃		
9日	℃	℃	℃		
10日	℃	℃	℃		
11日	℃	℃	℃		*6日配達途中でシッパーに入れた蓄冷剤が溶け切ったので予備の蓄冷剤と交換した。この時のシッパー内部温度は10℃以下を保っていた。
12日	℃	℃	℃		
13日	℃	℃	℃		
14日	℃	℃	℃		
15日	℃	℃	℃		
16日	℃	℃	℃		
17日	℃	℃	℃		
18日	℃	℃	℃		
19日	℃	℃	℃		
20日	℃	℃	℃		
21日	℃	℃	℃		
22日	℃	℃	℃		
23日	℃	℃	℃		
24日	℃	℃	℃		
25日	℃	℃	℃		
26日	℃	℃	℃		
27日	℃	℃	℃		
28日	℃	℃	℃		
29日	℃	℃	℃		
30日	℃	℃	℃		
31日	℃	℃	℃		

注1 冷蔵庫の扉の開閉は速やかに行い、庫内作業
注2 庫内は常に整理し「先入・先出」を励行する
注3 作業終了時は確実に扉が閉まっていることを



- 冷蔵車は設置温度計を確認し、車両庫内の温度を記録する。
- シッパーに入れて配達する場合、シッパー内部の温度を計測し記録する。その際、温度計は蓄冷剤など冷媒に触れないよう注意する。
- 温度測定は、出発時と帰社時とし、配達時間が2時間を超える場合は適宜温度確認をする。但し、蓄冷剤など冷媒が溶けていなければ測定は不要。
- 蓄冷剤などが溶けているときは追加、交換など温度を保つ対策を講じる。